

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由		
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	百貨店（営業担当）	・郊外大型店が開店する9月までは、今の状況とあまり変わらない。		
		百貨店（営業担当）	・消費の冷え込みも一段落し、前年実績を上回る商品アイテムも増え、さらに工夫次第で大きな売上を上げる商品が出てきている。原油高等の懸念要因もあるが、年末に向かい大きな株価の下落等がなければ、消費は堅調に推移する。		
		百貨店（営業企画担当）	・昨年はオリンピックや猛暑による客数減、台風の上陸等の悪影響あったが、今年は反動でプラスとなる。		
		百貨店（売場担当）	・猛暑が予想されるので、夏物商品が良く売れる。		
		スーパー（店長）	・衣料品関係が非常に良く伸びてきている。Tシャツ、婦人服のブラウス、スカート、ドレス等、子供から紳士までほとんどのアウターがかなりいい伸びを示している。雨が少なく、温度が高いということもあるが、クールビズ効果でYシャツが4割も伸びている等、衣料品の売上は今後もかなり見込まれる。		
		スーパー（総務担当）	・食品はほぼ前年並みだが、大きく前年を下回って推移していた衣料品、住居用品が、ここ何か月で復調している。消費者は衣料品、住居用品についても購入する余裕が少し出てきた。		
		家電量販店（店員）	・薄型テレビのほか、暑い日が続いているためエアコンもかなり売れている。パソコンに関しては旧型品がよく売れている。この傾向は今後も続く。		
		一般レストラン（スタッフ）	・帰省客が望める8月は期待できる。フリーペーパーの広告効果も軌道に乗ってきており、期待できる。		
		旅行代理店（従業員）	・ようやく夏の家族旅行が動き始めた。国内は沖縄、愛知万博が人気である一方、テーマパークは苦戦している。海外はハワイが復活した。国内の近場の予約はまだ少ない。		
		タクシー運転手	・ボーナスの話を客から聞くが、昨年より支給されるという人が多く、これから先は良くなる。		
		設計事務所（所長）	・民間、官公庁の案件がともに順調に増えているので、やや良くなる。		
		変わらない	変わらない	一般小売店〔鮮魚〕（店員）	・暑いせいか、鰻はまあまあの動きで、現在の悪さをいくらかカバーできる。
				百貨店（売場主任）	・気温が高いのは現状では購買を押し上げる要因になっているが、あまり続くと昨年のように商材が不足し、7月中旬からの売場の品揃えに新鮮味が無くなることで売上が落ちる可能性がある。
				百貨店（営業担当）	・来店客数、買上単価は減少しているが、レジ客数は上昇している。買物に慎重な姿勢には変化がない。
百貨店（業務担当）	・消費に抑制意識が定着し、若干の所得の上昇では大きく変わらない。小売業が売上に回復感を感じるまでには、まだまだ時間がかかる。				
スーパー（店長）	・鳥インフルエンザが報道され、今まで伸びてきた生肉部門の売上がまた下火になることを懸念している。客数の伸びは変わらないため、現状のまま推移してくればよい。				
スーパー（総務担当）	・大企業の決算状況は好決算であるが、一般消費者にお金が回ってくるには時間がかかる。今年の夏、冬のボーナスに応じて、消費マインドが若干回復してくる。				
衣料品専門店（店員）	・秋の新しいトレンドが出てきそうだが、まだ一般受けするかどうかわからない。気候も昨年のように残暑が続くと、衣料には厳しい。				
衣料品専門店（店員）	・9月まで残暑が続くと、秋物の立ち上がりがスムーズにいかず、難しい結果になる。安い商品でも秋らしい物、涼しげなもの、そういった商品をいかに集められるかがカギになってくる。				
家電量販店（総務担当）	・好調だったデジタル家電が一段落し、目玉になる商品が見当たらない。				
家電量販店（企画担当）	・現在は猛暑でエアコンが動いているほか、賞与も普通どおり出ているため良い。このまま現状維持で推移する。				
乗用車販売店（従業員）	・大型トラックの受注台数が伸びない。				
乗用車販売店（管理担当）	・客は買換えの気持ちはあるが、原油高等で判断が慎重になっている。ここ2～3か月では変わらない。				

		観光型ホテル（経営者）	・愛知万博が終了すると、九州への入込客は増える。
		旅行代理店（従業員）	・客は結構来ているが、客単価が伸びないほか、長距離の旅行が動かないということもあり、昨年と変わらない。
		旅行代理店（業務担当）	・海外旅行の先行き受注状況が前年よりも悪い。
		通信会社（経営者）	・景気回復は大手企業のみで、地方中小企業等は依然として厳しいものがある。
		観光名所（職員）	・現状維持が精一杯である。観光施設については、営業してもそれが入園者増になっているか定かではない。ゴルフ場にしてもコンペの奪い合いであり、全体のパイは変わらず天候次第である。
		美容室（店長）	・客の来店間隔が長くなり、以前より染髪も少なくなった。この傾向が今後も続く。
		設計事務所（代表取締役）	・建設業界は、民間の発注の動きは大きな変化がない。公共事業は事業が増えることは考えにくい。
やや悪くなる		百貨店（販売促進担当）	・近年の傾向であるクリアランス短期化に加え、夏が長くなれば秋物・冬物商材が売れず、消費は低迷する。
		スーパー（経営者）	・県外資本の大型商業施設の出店による来客数、単価の低迷が見込まれる。
		スーパー（店長）	・近隣半径5キロ以内にカテゴリーキラーができる。7月からは各競合店とも価格競争に走るため、7～8月は今までとは異なるトレンドとなる。売上は10～15%落ちる。
		スーパー（企画担当）	・露地物の生育不良が目立つ野菜の相場高、空梅雨の影響から相場高が懸念される新米、猛暑による家内調理の減少等、昨年以上に売りづらい環境が懸念されるため、食品中心のスーパーでは一層の苦戦を強いられる。
		高級レストラン（経営者）	・繁華街の様子を聞くと、居酒屋でも客が減っているようである。個人消費全体としても低迷しているようで、景気は悪くなる。
		観光型ホテル（スタッフ）	・第2四半期のすべての月で予算未達成の予測が出ている。特に個人催事である婚礼予約件数の伸びが今ひとつである。
		タクシー運転手	・売上が下げ止まらない状況である。客からも景気の良い話をほとんど聞かない。
		通信会社（管理担当）	・客の要求が単価、品質ともに厳しくなっており、利益を確保するのはますます難しくなっている。
		ゴルフ場（スタッフ）	・客は低料金のゴルフ場に行く傾向が強く、当ゴルフ場の様に単価を順守しているゴルフ場は今後も厳しい状況が続く。
		悪くなる	百貨店（営業担当）
企業動向関連	良くなる	建設業（総務担当）	・鹿児島市内のマンションブームはまだまだ続きそうである。当社も既に1棟は受注しているが、ここ2か月のうちに新たにもう1棟受注できる体制になった。
		不動産業（従業員）	・福岡市内のオフィスビル、商業ビルの還元利回りがこのところ猛烈に低下し、不動産価格全般に影響を与えている。また、マンション用地についても上昇しており、全般に不動産価格の上昇基調が続く。
やや良くなる		家具製造業（従業員）	・物件情報はかなり増えている。民間のマンション建設、飲食チェーンの出店、ホテル物件など活発である。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・大型案件へ発展する話がこの数か月で増加しているため、景気は良くなる。
		鉄鋼業（経営者）	・一般鋼材価格の下落にも歯止めがかかり、需要見合いの生産継続の効果が表れ、販売価格が反転する。それに伴い、滞っていた需要も回復する。
		電気機械器具製造業（経営者）	・半導体関連では、得意先で電子部品等で在庫調整が徐々に進んでいるため、多少は上向きになる。機械関連でもそのような動きが出ており、多少景気は上向き。
		輸送用機械器具製造業（営業担当）	・受注量が能力を超えており、生産能力を拡大するか迷っている。
		輸送業（従業員）	・大型の有力な商談が数件同時進行している。しかし、売上は上がるが利益はあまり残らない案件が多い。
		金融業（営業担当）	・受注量、販売量ともに取引先企業において増加がみられる。従って今後もだんだん景気は良くなる。

		広告代理店（従業員）	・新聞販売店の広告取扱枚数が前年比105%と依然順調に伸びているが、業種によるばらつきもみられる。食料品・薬品・化粧品・不動産・金融等が好調である一方、土地売買・小売業・生活用品・百貨店等は不調である。食料品以外の身近な小売が不調なので、実感できる程景気の回復は感じられない。
変わらない		農林水産業（経営者）	・例年は夏場に向かって消費が期待されるが、今年は6月に茨城県で発生した鳥インフルエンザの影響が心配される。昨年ほど悪くはないが、それでも風評被害が心配である。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・料亭や居酒屋で使われる割烹品の受注が大きく減少している。日用食器は今後も変わらない。夏場は総じて受注減となるが、これからは数量を少なくして品質を上げ、機能性を持った商品作りをしないと今後は道が開けない。
		一般機械器具製造業（経営者）	・7月から新規製品が動く話はあるが、材料価格がかなり上昇しており、価格に転嫁できるか不安である。
		広告代理店（従業員）	・催物やイベントが例年に比べ少なく、広告活動は低調である。景気上昇への確信が持てない。
やや悪くなる		食料品製造業（経営者）	・販売先の売上減少は、小売店の客数減および客単価の低下に起因するものであり、この傾向は今年後半まで続くことが懸念される。
		繊維工業（営業担当）	・クールビズは環境には良いと思うが、その影響で9月くらいまで暇なところが多い。
悪くなる		建設業（従業員）	・公共工事の入札があまり出ていないことに加え、今後は増税による個人消費の落ち込みなどで設備投資も手控えられる。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	新聞社 [ 求人広告 ]（担当者） 民間職業紹介機関（支店長）	・北九州市に新空港が3月に開港するため、その特需が見込まれる。 ・製造業の設備投資や大型商業施設の新規開店等により、職業紹介の依頼件数が増加傾向である。企業は、優秀な人材なら正社員採用する、という前向きな姿勢がより顕著になりつつある。
変わらない		人材派遣会社（社員）	・現在、派遣需要は落ち着いている状態である。下期に向けて派遣需要増が期待されるが、今は目立った動きはないため、変わらない。
		職業安定所（職員）	・請負求人はやや頭打ちであるが、派遣、パート求人は依然として増加傾向にある。一方でフルタイムの就職を希望する多数の求職者とのミスマッチから、雇用環境は依然厳しい。
		職業安定所（職員）	・非正社員化の促進がみられるため、雇用は悪くなる。
やや悪くなる		-	-
悪くなる		-	-